

兵庫県産果樹の生産・加工技術

本県の果樹生産は多様な地形、気候条件のもとで、多彩な品目が栽培されている。さらに多くの消費地を抱えることから、市場流通のほか直売も盛んである。一方、1戸当たりの経営規模は比較的小さい。これらのことから本県の果樹生産においては需要ニーズに応じた新品種の導入や品質の追求によるブランド化、収量の増加など収益性を高める必要がある。これらに対して当センターで

は近年の気象変動による凍害への対策、早期成園化、収量・品質向上などの栽培技術、新品種の適応試験（クリ、ブドウ、ナシ）、さらには生産物を有効活用する上での、加工・流通技術の研究開発に取り組んでいる。

山中 正仁（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

イチジクでは主幹を長くすると果実の成熟日数が短くなる

イチジクの「オーバーラップ整枝」において、主幹の長さが果実の成熟に及ぼす影響を調査した。その結果、主幹を長くすると果実の成熟日数が短くなり、収量が増加することが分かった。

内容

イチジク「柵井ドーフィン」のオーバーラップ整枝（図）では、主幹を長くすると結果枝伸長が促進され、収穫時期が早まる。一方で、節位別の着果日は主幹長による差はない（ひょうごの農林水産技術No.199）。そこで、主幹の長さが異なる樹において、各節位の着果日（果実の横径が約4mmとなった日）と収穫日から果実の成熟日数を調査した。

主幹長が1mと1.5mのオーバーラップ整枝樹において、第1-15節の成熟日数を第1-5節、第6-10節、第11-15節の3つに分けて比較した。その結果、第6節以上の中・高位節において、主幹長が1mに比べ1.5mの樹で成熟日数が短くなった（データ省略）。

これにより収穫時期が前進し、これまで秋季の気温低下により収穫できなかった高位節の果実の収穫が可能になることが分かった。

今後の方針

主幹の長さを自由に設定できるオーバーラップ整枝において、圃場条件に応じた実用的な技術開発を進める。

宗田 健二（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

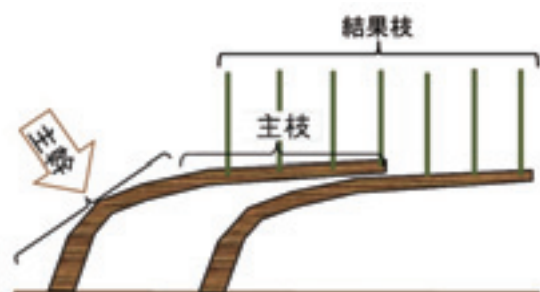


図 「オーバーラップ整枝」の模式図